

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子育てサポートどんぐり		公表日		R7 年 2月 28 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動に応じてスペース作りができています。	・部屋のスペースは決して広くはないが、活動に応じて公共の場や、同じ法人の事業所の場をお借りするなどの工夫をしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			・後1名いると、緊急時により対応がしやすいと考え、職員増へ努めていきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	・道路への飛び出し防止のための看板を設置したり、簡易的な柵を置く工夫をしました。ただ、施設の構造上難しい部分もあるが、出入口の階段が危険、不便に感じる。	・バリアフリーが理想ではあるが、早々にできないため、危ない箇所には職員を配置するなどの配慮に努めます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			・清掃等に今後も努めます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・個別とまでは確保できませんが、仕切りや空間を変えるなどの工夫をしています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・毎日の活動後の反省、都度会議を開きながら職員全体で取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・結果を用いて話し合いをして改善へ努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・都度、会議等を開きながら改善に努めています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価は実施していませんが、年に1回、法人内他事業所よっての内部監査により評価してもらいながら、改善に努めています。	・第三者による外部評価も検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・都度、外部研修に参加できる機会をつくり法人内研修に関しては2か月に1回のペースで取り組んでいます。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	・支援プログラムという名目ではないが紙ベースで年間の支援について年度初めに配布はできている。	・次年度より支援プログラムをHPに公表します。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・日々のケースにも計画を貼っており、全職員が確認しやすいようにしています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・希望者による発達検査、保護者からの情報収集、利用児の行動より確認しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・今年度より、支援計画の書式を変更したのもあってより具体的に計画をたてられるようになりました。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・季節ならではの遊びや、子ども達の興味、関心に合わせた活動になるよう工夫しています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			・活動の様子はよく書かれているが生活面の様子は不十分なところがあるため改善していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・相談支援事業所を介して幼、保と連携会議をとる場を設けることができています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			・今後もやりとりを重ねていくことで関係を築きながら情報共有、相互理解へとつなげていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・移行支援シートを用いて、情報共有に努めています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・助言とまではいかないが、センター主催の研修等には参加して、情報共有に努めています。	・積極的に関わる機会を増やしていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			・地域の公園に出会う子ども達と関わる機会はあるが、互いの目的、活動があると思うと積極的に関われない部分もある。交流をする場を設ける検討をしています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時や日々の連絡帳を通して共有に努めています。連絡帳には活動時に写真をのせることでより伝えられる工夫をしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・ペアプロ、ペアトレのような機会はつくっていませんが、都度、相談に対して対応しています。	・ペアプロ、ペアトレができる資格者を増やしていくと同時に、そのような場を知らせていきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・行事の中で保護者交流の場を設けている。 また兄弟同士についても交流できる機会になるよう努めています。	・保護者、兄弟児により視点をあてながら交流しやすい場を模索していきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・HPや毎月紙ベースにて通信を発行しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			・写真等の活用時に、通信発行前のチェックの段階でだが掲載不可の子が写り込んでいる時もありましたので、再度認識を強めています。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域住民を招待する等のはできていないが、町内会に属し、地域の中の事業所として何かできることがないか模索しています。	・地域の方の協力を得ながら、できることを模索していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・避難訓練の際は、SNS等を活用しながら訓練の様子を発信しています。	・研修等は実施しているが、訓練となると実施できていない部分もあるので、研修+訓練に努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			・外部研修等に参加しながら、訓練の方法を学びながら質をあげていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			・保護者からの聞き取りや書面にて把握しているが医師の指示書までは確認できていないため早急な確認に努めます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・避難訓練や衛生に関する訓練等を実施しています。 ・ヒヤリハット検討会を毎月1回実施して、事故につながらないように努めています。	・安全に関する事、全て網羅できている訳ではないので、安全につながる事を皆で話し合いながら共有していきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・通信にてお知らせしています。	・周知が上手くできていない、知らないという方もいらっしゃったところでは、周知の方法を検討していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・書式を簡易化したことにより、収集率が上がった。 ・検討会を毎月1回実施しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・外部研修に参加した事や、虐待防止委員会にて話し合われたことを、職員みんなで共有できています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			・現在は対象児童がいませんが、身体拘束とは、ただ身体の制限だけではなく、言葉での制限も身体拘束にあたるものだと考え関わり方に配慮していきます。	